小郡市人権センター通信

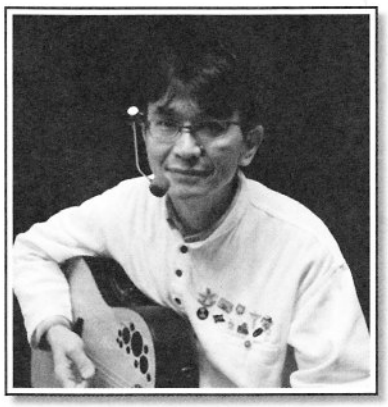
Vol.21
H26.2.1

人権センター公開講座（県民講座2013）のご案内

再公演

地球のステージ2

～国境を越えて＋東日本大震災復興篇～



NPO法人 地球のステージ代表理事

桑山紀彦（くわやまのりひこ）さん

今回の講座は、台風のため延期になっていました、平成25年8月31日分の再公演です。

「地球のステージ」は大画面の映像と音楽、語りを組み合わせたコンサートステージです。世界で起きている紛争、貧困、災害などの多様な出来事をテーマに、人権や国際理解、仲間づくり、地域社会、学校社会など様々なことを考えるきっかけになるのが「地球のステージ」です。カンボジアでの医療活動や世界で最も危険と言われるパレスチナ自治区ガザでの少女との出会いなど、桑山さんが海外で体験したことやこれまで出会った人々の明るくたくましく生きる姿を伝えていただきます。

世界に目を向けながら、人権を守るとはどういうことかについて、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

ぜひご参加ください。

手話通訳あり　要約筆記あり　参加費無料

【※小中学生のみなさんも、ぜひ参加して下さい！お待ちしています。】

■日 時：平成26年2月23日(日) 13：30～15：00

■会 場：小郡市生涯学習センター 七夕ホール（小郡市大板井1180-1）

■主催：（公財）福岡県人権啓発情報センター・小郡市人権教育啓発センター

【問い合わせ】

◇小郡市人権教育啓発センター ：小郡市小郡２９６　TEL：0942－80－1080

自分の言葉で人の心を傷つけていませんか

小郡市教育委員会が平成25年度に募集した人権作品の中から、小郡市立小郡小学校6年生、髙木麻衣さんの作文を紹介します。

― 軽い気持ちは ―

「そんなん、わざわざ見せんでいいし」

それは、私が友達に計算ドリルを見せた時に言われた言葉です。

先生が「計算ドリルを見てください」と言われ、私は先生の言うとおり、計算ドリルを見ました。でも、となりの席の友達が探していたので、私の計算ドリルを見せてあげました。

「はい。これ見ていいよ。」すると友達からこんな言葉を返されました。

「そんなん、わざわざ見せんでいいし。計算ドリルぐらい持っとるし」

すごく悲しかったです。友達はほんの軽い気持ちで言ったのかもしれません。でも、私にとってはその言葉は重く、頭から離れませんでした。親切のつもりで見せた私の気持ちをスルーされたような気分で悲しかったです。

しかし、私には悲しい気持ちともう一つの気持ちがありました。

「私もこうやって人の心を傷つけているかも」という気持ちです。

それは、夏休み明け。友達がディズニーランドやスカイツリーに行ったことを話していた時のことです。

「見て、これかわいいよね。スカイツリーで買ったんだー」

と、友達がお土産を見せてきました。私は冗談っぽく笑いながら、

「それ自慢じゃん」

と言ってしまいました。相手の気持ちも何も考えずに。その時の友達は

「ちがうよ。自慢とかしていない」

と笑っていました。今考えてみれば、友達の心は泣いていたのかもしれません。

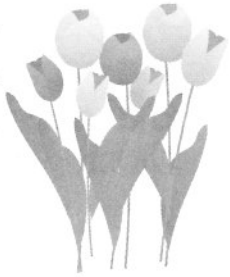
二つ体験してわかったことがあります。「言うほうは冗談。言われるほうは真剣」ということです。私が言われた最初の出来事では、言った友だちは軽い気持ちだったと思います。しかし、私はその言葉を真剣に受けていました。もう一つの出来事では、冗談で言った私の言葉で友だちは傷ついたかもしれません。軽い冗談、軽い気持ちで言った言葉は、相手にとって忘れられない一言になるかもしれません。

これからは、相手の立場になって言おうと思いました。ちょっとした軽い気持ちで言わないようにしようと思いました。

みなさんは軽い気持ちで言った自分の言葉で人の心を傷つけていませんか。

友だちはたぶん軽い気持ちで言ったのでしょうが、友だちの言った一言に麻衣さんの心は傷つきました。しかし、麻衣さんは悲しい気持ちだけで終わらせるのではなく、「私もこうやって人の心を傷つけているかも」と振り返っています。そして思い当たる出来事を思い出し、自分が言った言葉で友だちの心は泣いていたかもしれないと自分自身を見つめ直しています。

「私は人の心を傷つけたりしない。差別などしない」と、誰もが思っています。しかし「他人に足を踏まれたことには気づいても、他人の足を踏んだことには気づかない」と言われるように、わたしたちはなかなか自分が周りにしたことに気づかないものです。傷つける気持ち、差別する気持ちがなくても、自分の言動が時には相手の心を傷つけたり、差別したりすることになるかもしれないという思いは、常に心にとどめておく必要がありそうです。



みなさんはどう思われますか？

ご存知ですか？上杉佐一郎さん

―人間平等を日本から発信し、世界に広めた人―

上杉佐一郎さんは、1919（大正8）年、小郡市（旧三井郡御原村）に生まれました。貧困や部落差別などのさまざまな困難を乗り越えながら、部落解放運動の道を歩み、全国的な運動を進めていきました。さらに、1988年には、世界の被差別民衆の連帯運動を進めるために、反差別国際運動【ＩＭＡＤＲ（イマダー）】を創設しました。その後、人種・民族差別などをなくし、世界の人々の人権を守る活動が評価され、ＩＭＡＤＲは日本だけでなく、アジアで初めて国連との協議資格を持つ人権ＮＧＯとして登録され、今も活発に活動を続けています。

このような永年にわたる部落解放、反差別国際運動などの取り組みが評価され、1992年に小郡市から名誉市民の称号が贈られました。そして昨年10月、上杉佐一郎さんを敬愛する方々の浄財によって、小郡市人権教育啓発センターの敷地内に顕彰碑が建立されました。

21世紀は「人権の世紀」と呼ばれ、人権の大切さは世界の共通認識になっています。しかし残念ながら今も世界の各地で戦争や紛争が多発し、多くの人々が死傷したり貧困で苦しんだりしています。また、日本も人権がまだ大切にされている社会だとは言えません。

そのような中、日本では2000年に「人権教育啓発推進法」と呼ばれる法律が制定され、国、地方自治体、国民すべてが人権についての教育や啓発に努めるよう求めています。

このように人権尊重・人間平等社会の実現に向けての取り組みがいっそう進められようとしている今、もう一度上杉佐一郎さんの足跡を振り返りながら、私たちにできることは何かについて考えてみたいと思います。

人権センター らぃぶらりー

子どもたちに尋ねた将来の夢は？「サッカーの選手」「お菓子屋さん」・・・
地域やあなたの子どもたちの夢や希望がかなえられるような社会にするために、
わたしたち大人にできることは・・・・・
今回は、子どもの人権をテーマにしたDVDを紹介します。

「児童虐待と子どもの人権」（DVD 23分）

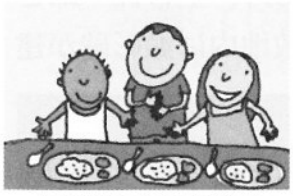
近年、子どもに対する人権侵害が増加しています。特に、児童虐待数はここ数年増加の一途をたどっており、虐待を受けた子どもが死亡する悲惨な事件も跡を絶たず、大きな社会問題になっています。

この作品は、虐待を受けた経験のある子どもや、虐待を受けた子どもなどを保護している児童福祉施設など関係者を取材し、虐待の現状とその背景を描いています。それをもとに、より良い子育てのあり方を探り、子どもの人権を守るため何ができるかを考える映像教材です。

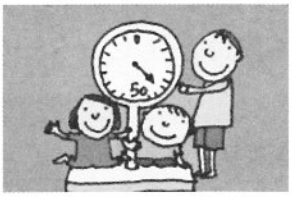
児童虐待とは、子どもが幸せに生きる権利を奪う行為であり、子どもの人権を否定するものです。子どもの成長する権利を守ることは、保護者をはじめ社会を担っている私たちすべての大人の責務であるということを伝えています。

国連は1989年、下記のような「子どもの権利条約」を定め、子どもたちが、一人の人間として尊重されるようにしました。ご家庭やグループで、子どもたちが自信を持って自分の夢を語り、実現していけるような社会にしていくためにどうしたらいいのか考えてみませんか。

子どもの権利条約



生きる権利



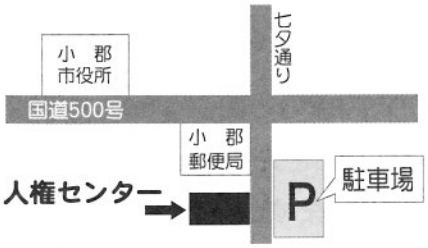
育つ権利

守られる権利

参加する権利

★人権センターでは、DVDやビデオの他にも、人権に関する図書も揃えて貸し出しています。
どうぞご利用ください。詳しくは、下記へお尋ねください。

★子どもの人権について、子育てについての図書もあります。



小郡市人権教育啓発センター

（所在地）　〒838-0141　小郡市小郡２９６
（電話&FAX）　０９４２－８０－１０８０（直通）
（Eメール）　dotai@city.ogori.lg.jp
（ホームページ）　http://www.city.ogori.fukuoka.jp/
【ホーム＞観る・学ぶ・人権＞人権教育啓発センター】